

第9回 パワハラでホンマにうつになるんです



今回は医師で友人のお嬢さんのお話です。

お嬢さんが社会人になりたての頃のシリアスな話です。

そのお嬢さんは、大学では学費免除の優等生で、友人たちと大学生活を謳歌し、
管理栄養士の国家試験も合格し、希望を胸に大学を卒業しました。

今から十数年前のことです。

第一希望の某病院に管理栄養士として採用されて、親元を離れて一人暮らしが始まりました。

そこで、ことは起こりました。

赴任先の病院の規模は病床400床余りで、管理栄養士は新米の彼女を含めて4人でした。

管理栄養士の人数は国の規定通りです。

トップは室長で、次いで主任が1名在籍していました。

彼女を含め2名がヒラでした。

管理栄養士の仕事は、入院患者の献立作り、食材の発注、
食材の検品などの給食業務や、栄養指導などの病棟業務です。

献立は、通常食や、疾患によって異なる特別食に加え、
食物アレルギーや好き嫌いを配慮した特別対応食など、結構な種類があります。
特に、食物アレルギーのある患者に対する特別対応食の献立作りでは、
食材や調味料にアレルギーが混入していないか事細かく点検しないとイケないため、
神経が張り詰めるそうです。

管理栄養士は、名前通り、責任が重い職業です。

多くの病院では管理栄養士は、患者に合った献立を作るだけで調理はしません。

調理は、調理師が管理栄養士の作った献立に従って行います。

ホテルや料亭、有名割烹で献立作りも調理もまかされた経験がある年配の調理師の中には、若い管理栄養士が作った献立を前に、自尊心を傷つけられたと感じる人もいます。

実際、その病院には、献立を作った管理栄養士を前に

「こんなもん、作れっか！！」と怒鳴り散らす調理師長がいました。

彼女が標的になることも日常茶飯事でした。

この状況が通奏低音のように低く鳴り続き、彼女の気持ちを暗くしたようです。

赴任後しばらくしてからのことです。

直接の上司の主任が、ヒラの管理栄養士が作る献立に根拠のないクレームをつけては怒鳴り、献立方針を朝令暮改してはその都度献立の変更を求めるようになりました。

仕事上の文句だけではなく、家で作って持ってきた弁当を食べている時など、

覗きこみながら「弁当の配色が悪い」といちゃもんをつけ始めたそうです。

さらに、その主任は、くだんの調理師長が起こすイザコザを調停することはなく、調理師長によるハラスメントは続きました。

こうした主任と調理師長に対する対応にかなりの時間を割かれ、

彼女は通常業務を時間内にこなすことができなくなり、

結果として、毎日15時間の勤務を余儀なくされました。

休日も、持ち帰りで献立作りを続けて、十分な休息はとれなかったようです。

残念なことに、当時の規程で「残業時間」は月10時間までしか報告できず、

病院が管理栄養士の超過勤務の実態を正確に把握する仕組みはありませんでした。

そうこうするうちに、彼女の「痩せ」が目立ち始め、

産業医の面談を受けるに至りました。

本人は、長期間超過勤務をしているという自覚はなく、

食事は普通に摂れていると思い、痩せたとは感じず、

十分眠れていると思っていたそうです。



自覚が無いので、
親である私の友人を含め誰にも体の不調を訴えませんでした。
実際には、毎食、パン1個ぐらいしか食べられず、
体重は42 kgから32 kgに減り、睡眠時間は一日3-4時間でした。
産業医が下した結論は「半年の休職」でした。

突然、休職で帰ってきた娘の変化にびっくりし、
私の友人はすぐに知り合いが営む精神科の診療所に彼女を連れて行きました。

お嬢さんは「うつ」と診断され、治療が始まりました。
半年後には、彼女は平和な日常を取り戻し、そして、元気になりました。
復職をしても、問題の主任や調理師長が退職あるいは転任したこともあって、
人間関係の軋轢は無くなり、勤務時間も正常に戻り、
問題なく仕事を続けられたと言うことです。

ハラスメントは「うつ」を、さらには「自死」を引き起こす悪行です。

働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト「こころの耳」

<https://kokoro.mhlw.go.jp/>

知ることからはじめよう みんなのメンタルヘルス（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/kokoro/>

兵庫医科大学 保健管理センター 職員相談室

<https://www.hyo-med.ac.jp/department/health-center/index.html>